
魔法少女リリカルなのは 片翼の閃光

雪風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 片翼の閃光

【Nコード】

N3193N

【作者名】

雪風

【あらすじ】

そう・・・あの時から、何かが変わってきたんだ。

片方の翼で飛び続けた代償は・・・自らの死・・・

少年は夢を見る、遠い空の平原で何かに向かって飛んでいる自分。

目覚めた先は木陰の下、目の前には・・・片翼の天使・・・

初めまして、雪風と言います。

やる気たっぷりで空回りしてる学生です。

コメント、感想、批評、よろしくお願いします。

プロローグ（前書き）

初めまして、雪風ゆきかぜと言います。
まだ書き始めたばかりなので、
温かい目で見てください。
至らない点はあると思いますが、
では、どうぞ。

ブローグ

「ぐっ… はぁ はぁ」

どれくらい時間が経ったんだろう？
不時着してから少なくとも2時間はたってる。

「このまま、死んじゃうのかな？ … でもいいや、大切な物は守れたし…」

心の奥底では、まだ居たいと言う気持ち働いている、
でも、体がそれを許さない。

急に意識が軽くなり始めた

「そうか… もうお迎えが来ちゃった。もう少し居たかったけど、
時間が無いや」

俺はそう言いつつ、マイクを取り、無線機の録音機能を入れる。

「多分、これを聞いている時はもう戦争なんか終わってるだろうけど、
最後に聞いて貰いたい事がある。

もし、また空を飛ぶことがあったら、
今度は俺の飛行機で高く、そして遠くまで飛んで欲しいな。

あの広い平原まで…

…

そろそろ疲れてきちゃった。

これで終わりにするけど、決して自分の所為だと思わないでね。
幸運を… グッドラック……」

そうして俺は意識を手放した

・・・・・・？

なんだろうここ？

変な気分だな、さながら天国か・・・ または地獄か・・・
でも、何かおかしい。

こんな真っ白な所、見たことが無い。
そんな時・・・

（あなたは…しなければ…なりません）

「えっ？」

（行きなさい、新たなる場所へ）

「それって…どうゆう意味？それよりあなたは？」

頭の中で声が聞こえた、誰も居ないのに・・・

（ふふっ、ただの通りすがりの者です。さあ、早く）

いきなり目の前に扉みたい物が現れる。

そこから、光が漏れてきた。

急に体が浮く感じがした、そして扉の方へ動き始めた。

（行つてらつしゃい、片翼の天使よ！）

「なっ！？　なんでその名を？」

だが、もうそこには誰も居ない。気配はあつたのに。
扉に近づくにつれ、光が体を包みだした。

「この光・・・知つてる。でも・・・思い出せない。」

なんとなくそんな事を思っていると、また意識が落ちていった。
そう、安らかに眠るように・・・

ふと、鼻にくすぐつたい風が抜けるのを感じた。
目を覚ますとそこは木陰で、太陽の光が漏れていた。
体を起こすと目の前には一面の海で、今さっき居た場所とは思えないほどの綺麗な景色。

「ここ、どこ？　僕はさっきまであそこに居たのに。
・・・うつつ、自分の事なのに思い出せない。　変...　で済ま
ないよねこれ」

頭の中を整理し、立ち上がってみる。

「って？　ええつつ！？　体が小さくなつてる！」

おかしい、世界の見え方がまるで小学生だ。

「これじゃあ、小学3年生だよ・・・」

しかたが無いので、少し歩いてみると、目の前に大きな天使みたいな銅像があった。

「これ、人？ いや違う、天使だ。しかも片翼が無い、なぜ？」

ふと、そんな事を思っている。

そのとき、頭の中のパズルのピースがはまった音がした。

「思い出した。自分の事、前にあった事、今はここの人間であること」

そう僕の名前は・・・

「・・・・・・・・・・夢宮^{ゆめみや}心^{しん}・・・・・・・・・・」

それが、全ての始まりだった。

ブログ（後書き）

実際書いてみると、すんなり行きませんね。
今回はブログだけですが、次回からキャラクター達が出てきます。

1週間には1本出せると思うので、がんばります。
感想、コメント、批評はお待ちしております。
よろしく願います。

第1話 少女との出会い（前書き）

眠い、てかもう朝ww

と言うわけで、とうとう第1話です！

第1話 少女との出会い

あの銅像を見てからもう2時間は経ってる。

今はこの町、海鳴市の港に向かっている。なぜかって？風に誘われた様な気がしたんだ。

「ここはいい町だな、海は綺麗だし、空も高い。

何よりいい風が吹いてる。何か温かい物に包まれてる気分だ」

そうそう、ここに来る時にいろいろな事を思い出したんだ。

俺の名前は夢宮^{ゆめみや} 心^{しん}、前と変わっていない。

この町は日本の海鳴市、死んだはずなのに跳ばされた、転生？って言うのかな？

両親は他界、飛行機事故で死んだらしい。家はこの近くの一軒家。

ここからが変わったところ。

まず年齢、あつちでは16歳だったのに、ここでは9才。

なので小学生。私立聖祥大付属小学校の3年生に明日から転入だそうだ。なぜか知らないけど・・・

それと目だ、両目とも色が変わっている。

片目は淡い青色に赤い円みたいな物が入ってる。見えるのは、線？みたいな物

もう片方は淡い緑色、これは自分の位置とその周りの空間が見える。これは正直便利だ。

噴水が近くにあったので、覗いてみてビックリしたよ。

でも、これはコントロールが効くらしい。

目をつぶって念じれば、元の黒色に戻るし、

また念じれば、両目の色が変わる、結構便利だ。

それと、体から何か沸いてくる、正確には胸の奥から沸々と何かが沸くような感じがした。

それを手に集めてみると、手から光が出た。

これにもビックリしたよ。しかも自分で形に出来たんだ。2度ビックリしたよ。

まあ、そんな所かな。せつかく貰った命だし、大切に使わないと。

そう思っている内に、防波堤の先端に来た。

「ふう、気持ち良いなここは。少し昼寝をするか。時間あるし」

そうして、眠りに落ちた……

（ん？あれ？ 誰かが泣いている？女の子？誰だろう？）

*

なのはside

家族がいて、友達がいて、お家もご飯も心配いらなくて、学校も楽しいのに。

悲しいような、辛いような、行き場のない気持ちちが胸の奥底から出て行かない。

「うつ ひつく うあああああああああああん」

苦しかった、自分の行き先が見つからないことが……

「どうしたの？」

「ふえ？」

後ろからいきなり声がして、
振り返ると、そこには髪の長い男の子が立っていました。

*

心side

「どうしたの？」

泣いてる声がしたから、その声のほうに行ったら女の子が泣いてるんだもん。
声掛けずにはいれないでしょ・・・

「ふえ？」

「とりあえず、はいハンカチ」

「あ、ありがとう・・・」

「何かあったの？ って、ごめんね初対面なのに」

「ううん そんなこと・・・」

「キミ、名前は？」

「え？ あっ・・・高町、高町なのは！」

「へえ なのはちゃんって言うんだ。

僕は夢宮、夢宮 心って言うんだよ」

「心？ シンくん？」

「そう、覚えた？」

「う、うん・・・」

「じゃあ、さっきの続き。なんで泣いてたの？」

「・・・・・・・・・・」

「言いたくないよね、ゴメン・・・」

「うつん、あんなとこで泣いてるのがいけないから・・・」

「なんで？ 泣くのは悪いことじゃないよ」

（それにこの子、俺と似たような物がある、

しかも、今さっき俺が出した光とまったく同じ力を持ってる）

「・・・・・・・・・・」

「ふう、じゃあ1つだけ聞いていい？」

「？」

「なのはちゃんは、この空は好き？」

「え？ うん・好きだよ」

「空に浮かぶ雲ってさあ、1つ1つ違う形してるよね？
それって、人の事と同じじゃないかな？」

「あつ・・・・・・」

「なのはちゃんが何を思っているかは、わからない。
でもそれって、別に普通でしょ？」

「・・・・・・」

「雲は最初は小さいけれど、だんだん形や大きさを自由に変えることが出来る。」

「だから世界に1つしかない。人もそう、最初は何も判らないけど、
大きくなるにつれ、やりたいこと、見たいこと、感じたいこと。
だから、人それぞれ変わってくる。」

「うん・・・・・・」

「だから、今はそんなに焦らなくても良いと思うよ」

「なんで、わかったの？ わたしが考えてること・・」

「ん？ 顔に書いてあったよ」

「え？・・・」

「冗談だよ、でも、なんとなくかな」

「そうなんだ・・・」

「じゃあ、そんな顔をしてるのはちゃんに手品！ 見てて」

そうして俺は、手に力を込めて、光の玉を作る。
それを空に解き放った。

「えい！」

「わー！ きれい！」

「はは、すごいでしょ？」

「どうやってやったの？」

「秘密だよ、大丈夫！なのはちゃんにも出来るようになるから」

「え？ ホント？」

「その内ね、じゃあそろそろ帰らないと」

「あ、ホントだ。もうこんな時間。おかーさんに心配かけちゃう」

「そうだね、じゃあ、また明日！」

「うん、また明日？」

「じゃあねー!」

「あつ……ハンカチ……」

*

なのはside

「じゃあねー!」

「あつ……」

どうしよう、ハンカチ渡しそびれちゃった。

どうしよう……また会えるかな?

心くん……どうゆう子なんだろう?

そうして私は家に帰りました。

次の日 学校の教室

「はぁーい 今日新しいクラスメイトを紹介します」

「なのは、この時期に転校生って変じゃない?」

第1話 少女との出会い（後書き）

いかがでしたか？

これからも、頑張るのでよろしくお願いします。

心「その前にちゃんと寝ろよ！」

はい・・・すみません・・・

次回、第2話 新たなる翼

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3193n/>

魔法少女リリカルなのは 片翼の閃光

2011年10月7日20時55分発行